

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2372500856
法人名	有限会社富士松
事業所名	グループホーム輪楽笑
訪問調査日	平成 20 年 12 月 15 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 21 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2372500856		
法人名	有限会社富士松		
事業所名	グループホーム輪楽笑		
所在地	春日井市白山町5丁目5番地2 (電話) 0568-51-8886		
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部		
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7		
訪問調査日	平成20年12月15日	評価確定日	平成21年2月21日

【情報提供票より】 (平成20年12月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	5人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年12月3日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.7歳	最低	71歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白山外科クリニック、三好歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに公園が2ヶ所あり、畑の隣接する閑静な住宅街にある。入居者は農家を営んでいた方が多く、広い敷地を活かし名古屋コーチンを飼育したり、四季折々の野菜の栽培を行い、季節を感じながら収穫の喜びを入居者と共に楽しんでいる。ホーム内は明るく観葉植物や花に囲まれている。居間や廊下には大きなソファが置かれていて、ゆったりとくつろげる個々の居場所作りがなされている。入居者と職員の信頼関係は確立されており、ホーム名のように笑い声がひびく朗らかなホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目の入浴は、入居者に合わせ時間の調整やその都度入居者の意向や希望を聞き対応している。常に清潔を保つよう汚れがある時は随時対応し、入浴剤も日替わりにするなど入浴を楽しむ工夫がなされている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員と意義を話し合いながら、外部評価の結果を踏まえ入居者全員に聞き取り調査をして検討を行い、改善方法や提案を出しながら取り組み、サービスの向上を図っている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議の参加者は市職員、老人会会長、利用者代表、職員等で構成されており、地域の方々との交流や運営推進会議のあり方について話し合い、その内容を活かした質の高いケアに向けた取り組みが実践されている。運営推進会議の持ち方、施設の運営についての疑問、確認事項など市の担当者に相談や情報交換等行い連携を図っている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関にご意見苦情受付箱を設け、常に家族や入居者が意見の言いやすい環境作りをしている。毎月発行される「ホーム便り」には、行事や日常生活の記録・健康状態などが詳しく報告されている。入所前には見学や利用体験入所等安心して過ごせるよう取り組んでいる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームでの行事の案内や呼びかけを行ったり、町内会の清掃活動、老人会の夏祭り等に積極的に参加し地域の人々と交流することに努めている。ホームでは、ハワイアンダンスを日々練習し行事で発表できるよう取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し「ゆっくり、楽しく、わっはっは」と笑って日常生活を過ごしていくことを基本理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示し、ミーティングや運営推進会議などの中で繰り返し伝え理念を共有し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、夏祭りや年2回行われる地域清掃活動、老人会が主催する月1回の「元気の出る会」など入居者と一緒に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全ての職員と意義を話し合いながら、自己評価を行っている。外部評価では結果を踏まえ入居者全員に聞き取り調査をして検討を行い改善方法や提案を出しながら、出来ることから即実行に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は市職員、老人会会長、入居者代表など職員も含め8～9名の参加で行われている。地域の方々との交流や運営推進会議のあり方、ホームで取り組んでいることを報告し、意見をもらうようにしている。	○	会議を2ヶ月に一度開催できる体制作りが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の持ち方、施設の運営についての疑問、確認事項など市町村の担当者に相談や情報交換等行い連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の「ホーム便り」には、行事や日常生活の様子が詳しく書かれている。個々の日々の記録等を月に一度報告され、ホーム内の生活の様子をよく知ることができる。金銭報告は毎月され、家族の訪問も頻回にあり面会時に記録簿を確認して頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見苦情受付箱を設置し、常に家族が意見の言いやすい環境作りをしている。苦情相談機関については重要事項説明書に記載されている。出された意見や要望はミーティングで話し合い取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤スタッフの異動や離職につながらないように、相談しやすい環境作りや精神ケアに努めている。異動や離職がやむをえない場合は、申し送りを徹底しスムーズに移行できるようにして、入居者が不安にならないよう最善の努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に随時全員が参加できる体制作りをしている。また、それらの研修報告は毎月のスタッフ会議で行い内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度開かれる地域のグループホーム会議への参加や研修時に交流の機会を作り、サービスの向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とも相談して利用前に見学や体験入所をしてもらい、ホームの雰囲気を感じてもらい、徐々に馴染んでもらえるよう努めている。希望があれば家族の宿泊も可能で、寝具も用意されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や敷地内の畑での野菜作り等一緒に過ごす時間を大切にして、得意なことや知恵など共感する支援が実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話に交えて声掛けを密にし、会話の中から本人の思いを把握するよう努めている。決して強制することなく、本人の意向に沿うよう対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや入居者の現状を把握した上で職員各々が意見を出し合いカンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとにプランの見直しが行われている。入居者の状態変化、日々のケアでの気づき、出来事などを記録しスタッフ間で申し送りを行っている。変化があれば家族に報告してその都度の対応がなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や必要に応じて買い物、外食、花見など外出の支援に柔軟に対応し希望に沿うよう努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が近隣ということもあり、事業所の協力医がほぼかかりつけ医となっている。月1回の定期検診、体調不良時はその都度往診する体制作りがある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応を家族・かかりつけ医・職員とで慎重な話し合いや意思の確認をしながら支援につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者は「常に人生の先輩である」を意識し思いを尊重してプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは持っているが、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、買い物や散歩等に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に出かけ献立を決めたり、隣接するホーム敷地内の菜園より収穫した野菜が献立に加えられ食事を豊かにしている。食事の準備や後片付けは、その人が出来ることを自発的に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者に合わせて好きな時間に入浴している。希望があれば毎日でも可能である。常に清潔を保つよう配慮し、入浴剤の種類を変えるなど入浴をより楽しんでいただける工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の絵手紙や習字の掲示がされていたり、個々のかごが用意され自分の洗濯物は自分で畳む、夏場はプランターの水やり、洗濯物干し、菜園作りなどそれぞれの役割や楽しみごとを率先してやって頂く様に支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに公園が2ヶ所あり、雨の日を除いて朝夕散歩を習慣化している。希望があれば個々の買い物や外食に出かけるなど日常的に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に音のセンサーを設置しているが、現在は使用されていない。誰もが気軽にホームに来れるよう安全面に配慮しながら、日中は玄関に鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、個々の居室前にヘルメットが用意され、毎週水曜日に入居者とともに避難訓練を行い、災害時に備え避難方法を徹底している。複数ある非常出口に番号を表示し毎回避難経路を変えて、いざという時の対応をしている。	○	職員のシフト上大変かと思われるが、夜を想定した訓練を試みることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスをチェックしており、献立表にはカロリーが表示されている。食事・水分摂取量など記録して、個々の状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開設後8年になるがホーム内は明るく清潔で、観葉植物や花に囲まれ快適な空間となっている。居間のソファにはそれぞれ座る位置が決まっていて、食事後は自分の居心地のよい場所でゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に洗面台があり、利用しやすい作りになっている。ベッド、家具、写真、テレビ、絵手紙など思い思いに配置し、使いやすいよう工夫されている。		

※  は、重点項目。